

今年もやります！ 宇大教職大学院説明会・見学会！

今年も11月3日(金・文化の日)に「教職大学院 説明会・見学会」を開催します。当日は、教職大学院の今日的な意義や設立過程等について、国の方針や全国の状況をふまえて説明をします。今回は、院生の手による宇都宮大学教職大学院紹介ビデオの上映や、修了生による宇都宮大学教職大学院の概要説明等も新たな試みとして行う予定です。教職大学院に興味のある大学生、小・中・高等学校・特別支援学校の先生方、学校の管理職の方々、そして県・市町教育委員会関係者の方々を対象にしております。教職大学院を希望していたり、仕事上の直接的な接点がなくとも、参加大歓迎です。是非気軽にお越しください。

今回は、昨年度の「説明会・見学会」を振り返りながら、今年の開催について御案内いたします。

◆昨年度の「説明会・見学会」について

昨年度の「説明会・見学会2016」は、説明会と授業見学会を柱にして開催しました。



《昨年度開催「説明会・見学会2016」の様子》

具体的には、宇大教職大学院の概要説明・入試関連説明等の後に、通常金曜日の午後二コマ枠(3時間)で行っている「リフレクション」(院生及び教員全員参加)の授業を実際に見ていただきました。授業は3時間枠を前半と後半に分けて、午前と午後に位置づけました。説明会も同じ内容を午前・午後と行いました。30名弱の方々が参加してくださいました。参加者のアンケートには、

- 教職大学院の設置目的や養成したい教員の姿について、よく分かりました。将来の教員生活に役立つカリキュラム構成だと思いました。
- いろいろな方々から話は聞いていましたが、実際に現場にお伺いして、その雰囲気などを感じることができました。
- 一人一人の先生が、今日的課題を熱心に研究されていたので、話を聞いているだけでもすごく勉強になりました。

等の記載が見られました。施設見学や相談会もあり、教職大学院の等身大の姿を知っていただく貴重な機会となりました。

◆教職大学院のこれから

今年の8月29日に「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書—」が公表されました。この報告書は、教員養成大学・学部、大学院等の将来のあり方に大きな影響を及ぼすことが

予想される報告書です。教職大学院関連では、「修士課程からの移行、実践的な教科領域の教育の導入、『理論と実践の往還』の手法等を活用した最新の教育課題への対応、教育委員会と協働して研修を企画・実施、教職生活全体を通じた職能成長の支援」等の記載が見られます。これらを見ただけでも、教職大学院が、今後益々重要な役割を担うことが予想できます。平成29年度現在、教職大学院はほぼ全都道府県に設置(53大学)されています。「なぜ今、教職大学院なのか」、説明会・見学会で、是非その答えを見つけていただきたいと思います。

◆「見学会・説明会2017」について

今年4月には、授業見学会週間を開催し、多くの方々に多様な授業を見学していただきましたので、今回は特に説明会に注力し、しかも午前中みの開催とします。「①松本敏専攻長による概要説明、②修了生及び現職院生の説明(映像や画像を中心に)、③少人数グループでの院生の説明」が主な内容です。施設見学や相談会も行います。小中学校・県立学校・県教委・市町教委には開催要項及び下記リーフレットを一斉送信しています。そちらも御覧いただき、教職大学院に足を運んでいただけましたら幸いです。どうぞ宜しくお願いします。(文責:近藤秀人)

～ 新たな自分に出会う場所 ～

宇都宮大学 教職大学院 説明会・見学会 2017

日時 平成29年 **11月3日(金)** 文化の日
9:00 ~ 12:00 (8:30受付)

会場 宇都宮大学 峰キャンパス6号館B棟1階(教職大学院棟)



《日時》
平成29年
11月3日
(金・祝日)
9:00~12:00

《場所》
峰キャンパス
6号館B棟

《申込み》
10月27日
(金)締切
コーディネーター
石嶋和夫宛
(028-649-5272)

※詳しくは
お問合せを!

近年、学校における「同僚性」の重要性についての指摘を、答申や行政の文書でもよく見かけるようになってきました。

米国の教師文化研究の中で同僚性概念が登場したのは1982年、J. リトルによると言われています。医師や弁護士と違って、教師は仕事の結果が不確実であり不安を常に抱えています。「教師なんか誰にでもできる」と言う部外者がたくさんいますね。言われるとそんな気がしてきませんか。)そのため、立派な仮面で真の自分を隠す自己疎外や学級王国に閉じこもる干渉拒否などが起こりやすいということは、それ以前にも指摘されていました。

リトルは、その克服のためには、共に不安を抱える教師同士の連帯で立ち向かう同僚性が必要であり、現にうまくいっている学校は「同僚性」が高いと実証しました。そして同僚性は「範囲・場所・頻度・焦点化と具体性・関連性・互惠性・包括性」の7つで構成されると説明しました。互いの実践をありのままに観察し深く味わい、同僚の仕事の良さと意義を確認し合う学校では、時と場所を選ばず、授業や子どもたちについての具体的な会話が頻繁に行われます。実践の改善の仕方の多様性(正解は1つではない)への確信が、不安と孤立を打ち破るのです。

単に仲の良い職員室、付和雷同型の意思決定、日本型集団主義は同僚性ではありません。学校文化・教師文化の負の側面を深く自覚し、上下関係や力関係を越えた連帯の下で、全員が主体性を発揮して真の学校改革に向けて創造的な仕事を共有していく、厳しくも希望の持てる関係を指すのです。

《シリーズ:教職大学院授業紹介②「学校における」管理」実践とその課題」(選択科目[前期])》

この授業は、学校の管理運営の実状と学校が抱える様々な教育課題やそれらへの対応策等について、演習や協議を中心に、文献資料の比較・分析、模擬体験・現場学習等を通して修得を図ってきました。

講座の前半では、「中教審答申」や「審議のまとめ」等を用いて、適切な学校の管理運営及び学校の組織運営のあり方について探ってきました。

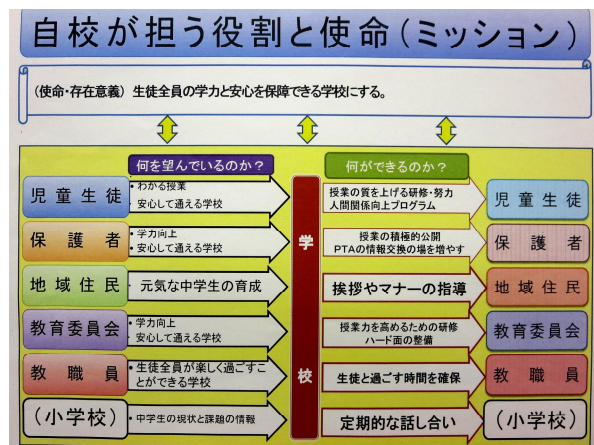
また、新しい教育委員会制度やコミュニティ・スクール、小中一貫教育等の国の動きや本県の実状等についても学びました。6月7日(水)には、受講者全員で栃木県教育委員会定例会を傍聴(写真①)しました。

講座の中盤では、教育判例から「スクール・コンプライアンス」に関する事例を取り上げ、その背景や要因を分析・検証したり、模擬記者会見を通して報道機関等への対応の仕方等を体得したりしながら、学校の危機管理の基本等について考察をしてきました。

講座の後半は、「学校組織マネジメント」を中心に、組織マネジメントの概論と代表的な手法について学びました。受講者が現職院生等でしたので、SWOT分析により自校を取り巻く内外の環境を把握・分析し、特色ある学校づくりに向けた課題整理と実効策を検討しました。こうした活動をもとに、自校が担う役割と



【写真① 教育委員さんと共に～教育委員室にて～】



【写真② 「自校が担う役割と使命」のプレゼン用PPの例】

使命(ミッション)を各自で探索し(写真②)、プレゼンを通して相互評価を行いました。

最終の時間では、初めに、これまでの授業全体を振り返るとともに、「職場における能力開発・人材育成の機会」を探究する活動を通して、「ミドルリーダーの役割と期待」ということについてKJ法を用いて考察しました。皆さんとても熱心に取り組みました。

最後に、受講者の声(一部)を紹介します。

- 学校運営には多くの人々がかかわっているからこそ様々な場面での「対話」を大切にしていきたい。
- ミッションを念頭に置くことで、一層特色ある学校づくりができると感じた。現場に戻った時が楽しみだ。
- 学校を「管理」するという、いままで経験したことのない視点からの話を聴いたり、演習をしたりして毎週とても刺激をいただいた。ほか

※なお、教職大学院の小野瀬善行先生にも、ほぼ毎時間同席していただき、適時適切な御指導・御助言を賜りましたことを申し添えておきます。

(担当:教職センター教授 瓦井 千尋)

